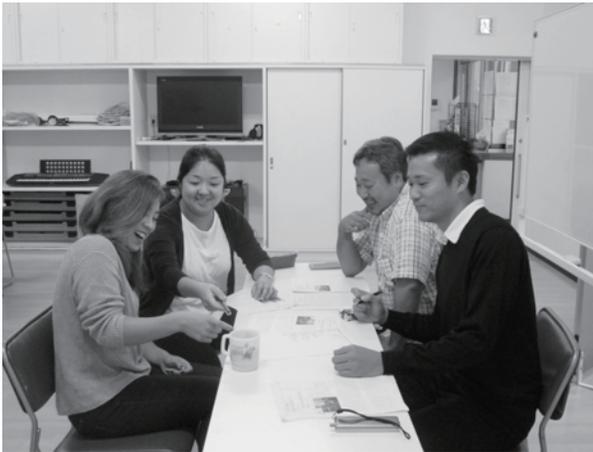


今、若い視線で 市作連の歴史を語り合う ということ

横浜市障害者地域作業所連絡会
研修部スタッフ会

イラスト 三浦ことみさん



「研修実施までの経緯」
障害者地域活動ホームいずみ会館
高野誠一

3月の市作連研修部スタッフ会にて、次年度の職員研修について話し合った際、当事者への差別や虐待・事業所の人材不足の問題に加え、移行支援事業補助金及び移

K S K

いずみ電

第 98 号

編集 横浜市障害者地域作業所連絡会

集者行日 谷口 実
編責任月 2018年11月3日
責発年

行支援事業借地借家費補助金が見直されるかもしれないという状況の中、そもそも補助金や横浜の地域福祉作業所の歴史や成り立ち、地域作業所が大切にしてきたこととは何かを知らないまま、なかなか知る機会にも恵まれず現場に立っている支援者はどれくらいいるのだろうかと考えた。

そのような私も横浜の障害福祉の歴史について自信をもって後輩に伝えられているわけではなかったが、かつて「あゆみ荘宿泊研修」に参加し、先輩方から歴史や現状と、これからのについてのお話を聴き、この仕事の魅力まで学ばせていただいたことは貴重な経験となり、前向きに続けられた理由の一つであると確信していた。

スタッフ会の中には、かつてのような研修が必要であるという想いとそのような研修を受けてみたかったという声があり、皆で「今一度多くの現場で支援に携わっている一人一人が横浜市の福祉の歴史と地域作業所や市作連が果たしてきた役割を学び、補助金の見直しについて理解を深め、課題について共々有できる研修を企画しよう」とい

う話しに進み、役員の皆さんをはじめ、多くのご協力を得て、素晴らしい研修を実施することが出来た。

「研修に参加してみて」

いずみ福祉作業所 ゆう 杉井紀子

全4回の研修に参加することが出来た。今回の研修は、複数回に分けて同じ内容を実施したこと、それによって非常に多くの参加者が集まり、同じ情報を得て、課題や悩み・想いを事業内容や立場の異なる職員同士で共有できたことが非常に有益だったのではないかと感じた。

私も職員になって10年以上が経つが、どのような歴史を積み重ね今の横浜の障害福祉があるのか、この研修で教わったこと、遡ることとは到底出来ていなかったと思う。職員になった経緯はそれぞれ違うだろうし、経験年数などで感じることも違ってくると思う。ましてや補助金廃止案という大きなテーマが今回の課題だったためか、気がついて参加された方も多かったように感じた。それでもグループディスカッション(3ページへ)

2018年度

地域作業所連絡会総会

去る5月25日、午後1時半より、横浜ラポール二階大会議室において、障害当事者も含め多数の参加のもと、2018年度の総会が開催されました。

- 開会のことは 根本 雅子
- 会長あいさつ 谷 口 実
- 来賓あいさつ
- 障害福祉部障害支援課長 上 条 浩
- 横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター センター長 森 和 雄
- 新作業所紹介
- 議事
 - 一、2017年度事業報告
 - 二、2017年度決算報告 会計監査報告
 - 三、2018年度事業計画案
 - 四、2018年度予算案
 - 三、四、ともに成立
- その他 お知らせ 閉会

平成30年度 事業計画

横浜市障害者地域作業所連絡会

実施時期	担当部会	事業内容
4	10	役員会 / 事務局 「横浜市法定事業移行支援事業」見直しに関する緊急要望書 署名活動開始
	18	役員会 / 事務局 第1回法定事業借地借家費に関する意見交換会 (4連絡会)
	23	役員会 / 事務局 29年度事業報告・30年度事業計画案等について
	25	役員会 / 事務局 「借地借家費プロジェクト」第2回会議
	下旬	広報部 「兎と亀」97号発行
5	14	役員会 / 事務局 30年度第1回役員会議 総会準備 / 役員配置 ブロック懇談会準備
	25	定期総会 / 研修会 29年度事業 / 会計報告、30年度事業計画 / 予算承認、新役員承認他
6	6	全会員 共催研修会「『改正・障害者総合支援法』の概要について」
	1~12	研究部 / 単位ブロック ブロック会議(テーマ「当事者、家族、支援者が今、困っていること」)
	18	研究部 要望書作成(ブロック会議まとめに基づき)(第2回6月27日/第3回7月4日)
	25	役員会 / 事務局 第2回法定事業借地借家費に関する意見交換会 (4連絡会)
7	11	役員会 / 事務局 30年度予算要望書案について他
	17	役員会 / 事務局 第3回法定事業借地借家費に関する意見交換会 (4連絡会)
	17	定例会 30年度予算要望書案について他《研修会》
	30	研究部 / 役員会 / 事務局 30年度予算要望書作成・提出・懇談会
8	22~27	各作業所 / 事務局 ふれあい作品展(高島屋) …市作連後援事業
	23	役員会 / 事務局 第4回法定事業借地借家費に関する意見交換会 (4連絡会)
9	未定	各作業所 / 事務局 地域作業所手作り製品フェア(有隣堂) …市精連共催
	未定	研修部 当事者研修会「D1グランプリ」(ラポールシアター)
	中旬	役員会 / 事務局 予算要望書提出の報告 / 「集い」第1回実行委員会
	下旬	定例会 要望書提出報告 / 「集い」計画案他 《研修会》
10	初旬	各区作業所 啓発キャンペーン(赤い羽根募金)
	中旬	役員会 / 事務局 「障害福祉の未来を考える集い」第2回実行委員会
11	中旬	役員会 / 事務局 「障害福祉の未来を考える集い」第3回実行委員会
	下旬	定例会 「障害福祉の未来を考える集い」について《研修会》
12	上旬	「集い」実行委員会 拡大実行委員会(スタッフ準備)
	6	「集い」実行委員会 「障害福祉の未来を考える集い」(予備日7日)
	下旬	広報部 「兎と亀」98号発行
2	中旬	定例会 / 三連絡会 31年度予算概要説明(健康福祉局)
	未定	各作業所 / 事務局 地域作業所手作り製品フェア(有隣堂) …市精連共催
3	上旬	研究部会 30年度の振り返り・31年度の活動計画検討
4	中旬	役員会 / 事務局 30年度事業報告・31年度事業計画案等について



イラスト 内田美苗さん

(1ページから)では、コーディネートの方を中心に多様な意見が飛び交っており、もつと話したい!と時間が足りなさそうな印象まで受けたほどだった。

各回研修が終わるころには多くの参加者がほぐれた表情をしていて、私自身がそうだったように、様々な事業・障害福祉について考える時間を持ってもらえたのではないかと感じる事が出来た。「市作連職員の束は太くて強い」そんなことを実感することが出来た研修に参加できて本当に良かったと思っている。

「スタッフ会に関わってみて」

トムトムの家 入江由季

今年度より市作連研修部に参加させていただいて初めての企画・運営が今回の職員研修だった。それまでは毎年行われているD-1グランプリに事業所の利用者さんと一緒に参加させていただいたことがあるだけで、市作連研修部のことはあまり知らなかった。実際に参加させていただくと事業所ではなかなか得ることのできない知識や経験・情報・繋がりがあり、と

ても魅力を感じた。月一回の定例会の中でなにより私が一番感じたことは、参加しているメンバー全員の当事者に対する思いがとても熱い!ということだった。

今回の職員研修も、歴史と共に制度改正について考え、支援者一人一人のスキルを上げることが目的だったが、根底には利用者さんにとつてより良い環境と支援ができるようにという思いが強かった研修だと思つた。

私自身、企画・運営側で参加させて頂くことによつて、参加者に伝える難しさを感じると共に、より深く横浜の障害福祉の歴史やありゆきを学べ、利用者さんと向き合う姿勢や日々の支援を考え直すきっかけとなつた研修だった。今後ともスタッフ会全員で協力して色々な視点の研修を企画・運営していきたいと思う。

「作業所の歴史を語る」

障害者地域活動ホームあさひ 浦野拓郎

私たち職員は作業所の歴史、横浜の障害福祉の歴史を「語る」「伝える」ことができるだろうか?自

信をもって手を挙げられる職員は少ないのではないだろうか。

当然、私も手を挙げられない一人なのだが、今回の研修にて伝える側として皆さんの前に立たせていただき、気付けたことがある。それは、これまでに私が聞く側として、当事者の方や、その親御さん、諸先輩方に、作業所の歴史や経験談を話していただく機会があつたが、「私たち職員に何を伝えたいのか」という話し手の方々の「思い」に想像が及んでいなかったことである。

単に昔の苦労話を聞いてもらいたい、苦労に共感してもらいたいではなく、この先を良くしたいという思いの上に、当事者の方やその親御さん、支援者が立ち上がつて声を出し、横浜市行政もその声に応じて、横浜の障害福祉の状況を「変えてきた」、「変えられる」という事業そのものが、作業所の歴史を語るに於いての「伝えたい思い」ではないだろうか。なぜならば、私たち職員にとつて、その事実が前向きになれる道しるべであつて、道に迷つたときの拠り所にもなるからである。

私のように語る内容に支離滅裂があつても、真剣に話を聞いてくれる仲間がいて、いくらでも仲間が内容を補つてくれるということがわかつたのも今回の収穫である。是非、皆さんも作業所の歴史を語つてみてはいかがだろうか。

今回の研修に協力、参加していただいた皆さんに、改めて感謝を申し上げます。

2018年の夏に計4回開かれた市作連職員研修に関して市作連研修部スタッフ会の方々に原稿をいただきました。

私が出た研修会では、経験の浅い職員の皆さんが、障害のある方々との活動をとてもしいきいきと語つていたことが印象に残つています。

市作連研修部スタッフ会は、新しい仲間を募集しています。興味のある方は
いずみ会館801-8425高野さん
まで電話してみてください。

(広報部)

新設作業所紹介

NPO法人 げんき
ふれあいクローバー
(鶴見区)

は地域活動ホームふれあいの家の
ブランチとしてオープンしました。
京急生麦駅と京急新子安駅の真ん
中に位置しています。メンバーの大
好きなキリンビール工場の目と鼻
の先にあり、おいでの際はキリン
ビール工場を目指しておいで下さ
い。笑

ふれあいクローバーでは、10人の
メンバーが作業を分担して行つて
います。作業のひとつに美容室で使
用するタオルをたたむ作業があり
ます。1日に100枚もたたむとき
もあります。タオルをたたむ人・テ
ーブルにタオルを用意する人・紐を
切る人・車で納品に行く人様々です。
ふれあいクローバーがオープンし
てからまだ半年ですがメンバーの
上達ぶりには驚きです^(A)。
先日、ふれあいの家と合同で地域
の清掃活動に行ってきました。いつ
もお世話になっている生麦地区セ
ンターと生麦地域ケアプラザの庭を



清掃してきました。『出来ることは
自分で』をモットーにほつき・ゴミ
袋・トングバサミとそれぞれ担当し
て軍手をはめて、いざ出陣！みんな
下を向いて歩く歩く(笑)…。たばこ
のポイ捨てが多いな、美味しそう
なハンバーガーの袋が落ちていろ
なーなどと言いながらたくさんの
ゴミを集めました。雨上がりのじめ
じめとした陽気でやぶ蚊もたくさ
んいる中、お構いなしに頑張つてく
れました。地域の人に『がんばって
るね！ありがとう！』『きれいに掃
除してくれてありがとうね♡』な
どと嬉しい言葉を頂戴しました。地
域の人が喜んでくれて自分たちも
とても嬉しかったです。これからも

この生麦の街で活動し、地域の二員
として、多くの人に愛されるような
ふれあいクローバーを目指してい
きます。今後とも、どうぞよろしく
お願い致します。

横浜YMCA ワークサポートセンター

レザン (戸塚区) は、

2018年4月に横浜YMCA2ヶ
所目の就労支援施設として横浜市
戸塚区戸塚町(戸塚駅より徒歩12
分)に開設しました。横浜市地域
活動支援センター障害者地域作業
所型として運営を行い、次の目標
に取り組んでいます。①社会との
つながりを強めていくこと。②自
分自身のこと(調子・体調)を知
り、整えていくこと。③余暇など、
楽しみ・好きなことを見つけてい
くこと。もともと横浜YMCAで
は20年以上前から発達障がいの子
どもたちへの支援を行ってきた
経緯があります。その経緯もあり、
現在は発達障がいのある方が多く
在籍しています。人ごみや、乗り
物が苦手な方が通いやすい場所を
目指し、戸塚駅から歩ける距離で
の開設が実現しました。また、地

域の方々との交流の機会を多く持
つことが出来るよう、活動に「カ
フェ運営」を選びました。どなた
でも気楽に来ることが出来る場所
を目指しており、障がいの有無に
かわかわらず、様々な方が居場所と
して活用いただける場になればと
思います。活動内容は、カフェ運
営(接客・配膳・調理補助・洗い
場など)以外にも軽作業や手作り
品制作も行っています。また、様々
な経験を通して自分を知るきつか
けにするために、ソーシャルスキ
ルトレーニングやヨガ・茶道体験・
からだづくり・調理プログラムな
ども行っています。レザンとはフ
ランス語で「ぶどう」を意味しま
す。ブドウは一本の木が枝をはり
多くの実を結びます。私たちは、
与えられた「レザン」により、地
域に枝をはり、通われえる障がい
のある方・集う地域の方々が様々
な実を結んでもらえるようにとの
願いを込めています。活動は平日
の9時～15時(もしくは10時～
16時)で行っており、カフェは月
～木の11時～16時で営業予定で
す。カフェのオープンに向けて、
現在準備を進めており、10月末ご
ろまでにはオープン予定ですので、

ぜひ遊びに来てください！お待ちしております。



スコップ下飯田(泉区)は

平成29年4月に仮場所で開所し、翌30年3月より現在の場所での活動をしています。先だって開所していた「スコップ泉」同様に、地域住民や他の施設の方々にも温かく向かい入れていただきました。初年度から、地域でのお祭りなどのイベントや防災訓練にも参加させていただいています。

日中活動は作業を中心としたプログラムになっており、主に受注作業の「岩塩」の検品、計量、梱包、パッケージ作りです。



見学に来て下さる方に「細かい作業をして凄いですね！」と声をかけて頂くのですが、最初からこのような作業をしていた訳ではなく、手工芸品(ビーズアクセサリー)にピンセットを使って作っていた経緯があり、その経験を生かしているのだと思います。

平均年齢24歳と比較的若い方々が作業意識を持ち、連携して作業に取り組んでいます。作業所の主役は利用者だということ。利用者一人一人が自身をもって「仕事」に取り組める環境作りと支援を日頃より心掛けています。

これからも地域の方々の温かい見守りとご理解を頂き、利用者がいつまでも安心して通える「職場」を守っていききたいと思っています。

東日本大震災 震災掲示板 17

TEAM3 2017年度報告

日頃より、活動に賛同して下さり、多大なご協力のほど感謝申しあげます。TEAM3の活動は災害時被災者支援です。

主な活動

- 事務局会議の実施 事務局員12名 4月～6月各総会、会議で
- 2016年度報告2017年度計画 11月 缶バッジコンテスト
- 南相馬ファクトリーに発注 12月 「障害福祉の未来を考える集い」 @大通公園

- 缶バッジコンテストの表彰式 来場者にバッジ・マグネットを配布
- 1月 災害シンポジウム開催
- その他活動

- ・チラシを配布・継続して災害時障害者支援を呼びかける。
- ・ブログの更新
- ・広報誌「兎と亀」に記事掲載
- ・障害者支援センター機関紙「お元気ですか」に記事掲載

収支報告(2017年4月～2018年3月)

収入	繰越金	287,576円
支援金収入	192,758円	
その他	0円	
計	480,334円	
支出	支援金配分	70,000円
缶バッジ購入	108,000円	
調査費	0円	
災害シンポジウム経費	16,920円	
繰越金	285,414円	
計	480,334円	

支援金配分先

熊本県障害者福祉作業所連絡会

支援寄付者芳名(2017年度)

- もとみや家族会 びぐれつと
- たんまち福祉活動ホーム あさひ
- 若葉台ぶんげいざ トムトムの家
- 西区地域活動ホーム ダンボ
- 神奈川県福祉活動ホーム
- 第2つばみの家 金沢福祉センター
- 災害シンポジウム募金(順不同)

●TEAM3は災害時障害者支援計画として今後も息の長い活動を行っていきます。

※詳しくはチラシ、もしくはPCCで「TEAM3」と検索し、ブログをご覧ください。

平成30年8月20日

会員各位

横浜市障害者地域活動ホーム連絡会 会長 早坂由美子
 横浜市障害者地域作業所連絡会 会長 谷口 実
 横浜市グループホーム連絡会 会長 赤川 真

運営に関する注意喚起について

本年度、連絡会の会員である事業所の職員によって着服事件が重ねておきました。

長く福祉に携わり、支援を行うものにとって非常に残念なことであり重く受け止めています。そこで、横浜市障害者地域活動ホーム連絡会会長、横浜市障害者地域作業所連絡会会長、横浜市グループホーム連絡会会長はこのような事件、権利侵害が二度と繰り返さないためにはどうしたらよいか話会しました。

私たち連絡会会員の事業所の特徴の一つに小規模性（小規模な現場）があげられます。一人ひとりの利用者・家族に応じた支援を行いやすいことが一番の良さです。この顔の見える関係を作り上げるために小規模性を選択してきた事業所が多いと思います。

しかし、小規模性の弱さがあることも実感しています。金銭管理を複数で行うことが難しい、悩んだり困っている支援者の相談体制が弱い、管理者が様々な兼務をおこなっている、などの課題があげられます。

このような事件、権利侵害等が一度起きてしまうとそれまでに築き上げた利用者・家族との信頼関係は簡単に崩れてしまいます。今私達に求められているのはそれぞれの組織の運営者・管理者が適正な金銭管理や支援の仕組みを作り上げていくことです。

各会員は他人事、対岸の火事ではないことを認識していただき、まず組織内部で話し合いの場をもってください。未整備な点がある場合は早急に改善をしてください。二度とこのような事件、権利侵害を起こさないこと、今後の信頼を取り戻すために取り組んでください。

今後、各職場で話し合ったことなど率直なご意見をみなさんから頂き、みなさんとともに検討していきたいと思っております。再度ご連絡申し上げますので、よろしくお願いいたします。

市作連 事業報告

(横浜市・4連絡会)

4・23

役員会

5・23

「兎と亀」97号発行

5・24

緊急要望書署名を横浜市に提出(第2回意見交換会)

5・25

定期総会

4・18

第1回法定事業借地借家費に関する意見交換会

7・11

2017年度事業・会計報告

7・17

2018年度事業計画・予算新役員承認

6・1

各ブロック会議

7・12

テーマ「当事者・家族・支援者が困っていること」

7・18

研究部会

6・25

ブロック会議まとめと要望書作成

7・4

第3回法定事業借地借家費に関する意見交換会

7・11

役員会 要望書案作成

7・17

第4回法定事業借地借家費

に関する意見交換会

7・20

定例会

7・30

30年度予算要望書について

8・21

「地域活動支援センター作業所型・活動ホームの充実と障害のある方の暮らしの充実に関する要望書」提出

8・23

懇談会・署名追加提出

8・21

臨時役員会

8・23

第5回法定事業借地借家費に関する意見交換会

8・22

「ふれあい作品展」高島屋

9・4

「地域作業所手作り製品フェア」

9・30

有隣堂本店 市精連共催

11・

「兎と亀」98号発行

編集後記

運動体としての市作連の意味を、色々な世代と話し合い確認し、前に進む必要があります。スタッフの皆さんの取り組みはありがたかったです。横浜市との話し合いはまだ、継続中です。

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0855 横浜市港北区鳥山町一七五二

障害者フット文化センター 横浜ラポール3階

〒240-0833 横浜市保土ヶ谷区坂本町一二二八

編集人 横浜市障害者地域作業所連絡会

〒240-0833 横浜市保土ヶ谷区坂本町一三二八

電話 〇四五(四四二)三九一七

FAX 〇四五(四四二)三九一八

編集責任者 谷口 実

定価 一五〇円